

# ■ 第5回小樽港フィールド・ラーニングの開催について

北海道開発局 小樽開発建設部 小樽港湾事務所

平成27年11月26日(木)、小樽開発建設部において、港湾管理者を含む64名の参加により、第5回小樽港フィールド・ラーニング(以下、O.F.L)を開催しました。

O.F.Lは、小樽築港開始時の計画、調査、設計、施工を始め我が国初の近代築港の計画、築造における廣井勇博士(初代小樽港湾事務所長)の工学の考え方等を学ぶことは、港湾技術者としての意識・技術・知識、港湾を含む社会資本整備の計画・説明力等の向上に効果的であり、小樽港(Otaru)で実物を見ながら(Field)習得(Learning)する意義は大きいと考え、開催しています。

平成23年度に第1回目を開催し、今年度で第5回目の開催となります。(開催趣旨については、第1回O.F.L開催報告(港のたより Vol.100)を参照願います。)

コンクリートへの火山灰混合による大幅なコスト縮減等、北防波堤施工で用いた技術(工夫)について学びました。



小樽港湾事務所資料コーナーの見学



講演の様子

講演の後には、北防波堤コンクリートでの火山灰使用、北防波堤の冬季施工の状況、夏場のコンクリート品質管理及び廣井勇博士が整備に携わった函館漁港とのコンクリート強度の違いなどについて、活発な意見交換が行われました。

また、翌日には、小樽港湾事務所において、実際の構造物を見学して、講演内容の理解を深めております。

最後に、本O.F.Lは、今後も、継続して開催していく予定ですので、多数の方々のご協力をお願いします。

今回は、「北海道開発土木研究所月報(2005)特別寄稿 シリーズ港湾技術の創世記に学ぶ～廣井勇に学ぶ OTARU ゼミナールの活動より～」論文No.5「小樽港北防波堤の施工」の執筆者である大倉正憲氏(勇建設株式会社)を講師に迎え、「小樽港創成期における北防波堤施工の工夫」と題してお話を伺いました。

講演では、明治初期から小樽港北防波堤着工までの小樽を取り巻く行政、交通、貿易、漁業、港湾施設、埋立等の社会情勢を概観しました。その上で、廣井勇博士が小樽港北防波堤施工において確立した機械化一貫施工技術、コンクリート材料の品質と配合、コンクリートブロック製造の方法、養生などの品質管理及び

